



「ほっ。」と エピソード

Vol.4

企業の採用と人材育成を支援する会社、「採用と教育」。その代表・半田真仁が日々現場で出逢い、心動かされたエピソードをご紹介します。

今回は、福島県いわき市で焼き鳥店を経営する、A社さんのエピソード【後編】をお届けいたします。

A社さんの経営する焼き鳥店は、社長はじめスタッフの皆さんの真心と、美味しいメニューで大人気です。

前号では、オープンから現在にいたるまでのストーリーをご紹介しますいただきました。今回は、あるきっかけで、社長が中心となってミャンマーに学校を建設された時のエピソードをご紹介します。

A社さんの経営する焼き鳥店で、アルバイトとしてお勤めされていたのが、留学生のKさん(仮)。

彼は、とにかく素直で、本当に一生懸命にお仕事をされる方です。その素敵な笑顔と人柄で、お客様からも、仲間からも愛されていました。

Kさんの故郷は、ミャンマーのザガインにあるインザ村というところ。

彼はある時、所属するロータリークラブの例会で、ミャンマーの平均寿命が短いのは、飲料水に問題があるからではないか？という発表を行いました。

インザ村では、飲み水をため池から汲んでいました。しかも、それは泥水。上澄みをすくってなんとか飲むのだそうです。

その話を聞いたロータリークラブで、Kさんの故郷の村に井戸を掘ろうということになり、現地への視察旅行が企画されました。

それを聞いた社長は、その視察に、ご家族とともに同行することになりました。

いつも、社長の店で一生懸命に働いてくれる、まっすぐな心を持ったKさん。一度、彼の故郷を見てみたい！社長はそう考えたのです。

飛行機を乗り継ぎ、マンダレー空港からはワゴン車で移動。

途中からは、いかにも東南アジアらしい、トラックの荷台に乗り換えて…。橋のない川をわたり、道なき道を進み、ようやく村へ到着しました。

村の人々は、歓迎というよりは、ものめずらしそうに社長たちを見していました。遠巻きに人だかりを作っているけれど、近寄るとサーッと散らばって、固まって視線を合わせてくれません。意外に恥ずかしがり屋さんな人々です。

そして、一行は、ため池の視察へ向かいました。

ため池は、村の小・中学校がある敷地の、裏手にありました。Kさんの言うとおり、本当に泥水でした。

しかし、池よりも驚いたのは、学校の建物のほうです。

「これ、雨降ったらどうするの!？」

小学校はトタン張りで、なんとか建物の形をしています。しかし、中学校は…

「この通り、屋根だけです。雨が降ったら授業はできません」

なんと、この村の中学校は、予算の関係で建設が途中で打ち切られ、そのまま放置された状態だったのです。

その後、一同はKさんの家に移動し、村の人たちと話をしました。

「井戸よりも、学校を建ててほしい。協力してもらえませんか？」

ひとりの村人の男性はそう語りました。

この一言は、社長の心を揺さぶりました。

あんな泥水を飲むことよりも、子供たちの教育を心から願っている。この人たちにとって本当に必要なのは「教育」なんだ…。

しかし、今回の訪問は井戸を掘るための視察。急に学校を建ててほしいとお願いされても、すぐには返事できません。井戸のほうは話を進める、ということで、一同は村をあとにしました。

でも、社長の心には、あの男性の「学校を建てるのに協力してもらえませんか？」の一言が、ひっかかったままでした。

帰り道。社長は、大陸に沈む夕日を車窓から眺めながら、なんともいえない気持ちの中にいました。

実は一行は、村に行く前、ザガインにある日本人戦没者慰霊碑を訪ねていました。

それは、太平洋戦争のビルマ(ミャンマーの旧国名)戦線で命を落とした日本人を祀ったものです。

同じように夕日を見ながら、遠く離れた日本に帰る日を夢見ていた兵隊さんが、それは大勢いたことでしょう。

現地には、その日本人の慰霊碑を、今でも大切に手入れされているお坊さんがいました。

社長は感じたそうです。外国人である日本人の慰霊碑を、戦争が終わって長い今も、毎日丁寧に祀ってくれている。損得など、いっさい関係なしに。ミャンマーの人々は、なんと気持ちが豊かなのだろうか。…と。

当時、日本の兵隊は、ビルマの人々にたくさん助けてもらったのだそうです。そのことで、今でもミャンマーに感謝して活動をされている個人・団体の方がいます。

ミャンマーのことをもっと知りたいと感じた社長は、調べているうちに、ミャンマーで福祉活動をしている人がいることや、ほかにもミャンマーに学校を建てた日本人がいることなどを知りました。

あの学校を何とかしたい。私も何か動いてみれば、プラスになるんじゃないか？

ミャンマーから、学校の建設費用をだしてもらえないだろうか。日本でも、寄付を募ることができるかも。

よし、やろう。

社長は、Kさんとともに、ミャンマーに学校を作るプロジェクトを立ち上げました。

焼き鳥店には、ペットボトルで作った募金箱が設置されました。同じチェーンを展開する仲間や、知り合いにも頼んで、募金箱を設置してもらいました。

現地で見積もりを取ったところ、建設には600万円ほど予算がかかるといわれました。しかし、村の人達が全面的に協力すると約束してくれたので、最終的には約半分の300万円で建設ができることになりました。

社長がはじめた善意の輪は、ご自身の予想を超えた反響を呼び、マスコミなどにも取り上げられて、全国へと広がっていきました。

そして最終的には、330万円もの善意が寄せられ、2009年の秋、中学校は無事に完成を迎えました。

村の人が皆で考えて付けた学校の名前は「ウタパラ」。現地の言葉で「人類を守る」という意味です。

開校式に招かれた社長は、実際に校舎を目にし、感動して思わず声を出してしまったそうです。

初めて会ったときは恥ずかしがりやだなと思った村の人たちも、今度はみんな笑顔でこちらを見ていました。

「学校は、作って終わりにするだけでは意味がないですよ。ウタパラ中学校には、これからも継続して支援させて頂く考えです。そのため現在も、引き続き募金活動などを行っています。現地で学んだ子供たちが、いつか留学していわきにきてくれたら、すごく嬉しいな。」

社長は、そう声を弾ませます。

社長が経営されている焼き鳥店で、実際の開校式の写真を見せていただくことができました。村の未来を背負う子供たちの鮮やかな笑顔と、それを彩る真っ青な空。驚くほど美しい光景でした。

この村は必ず、もっと明るく楽しくなっていく。そう予感させるようないきいきとしたエネルギーが、子供たちからいっぱい溢れていました。



半田真仁(はんだしんじ)

——「採用と教育」代表

広島県出身。社員研修や新卒採用支援など手がける。地元、中小企業から県内外の上場企業まで、人財育成のサポーターとして飛び回っている。

こころほっと ニュース。

会津の名産品「長州」で販売 戊辰戦争の因縁超え農家支援

原発事故の風評被害に苦しむ農家を支援しようと、山口県萩市の農協が福島県会津若松市の名産品販売を始めました。戊辰戦争（1868～69年）では長州藩、会津藩として戦った両市ですが「過去の歴史は別にして同じ農家として苦しむ仲間を救おう」と意気込んでいます。

きっかけは、両市の農協組合長が昨年夏、東京で開かれた会議で「将来に向け交流を始めよう」と意気投合したこと。震災後の今年3月下旬、萩市を訪れたJAあいづ幹部に、萩市農協側が支援を申し出

4月中旬から萩市内のスーパーの特設コーナーなどで会津名産の地鶏、馬刺し、喜多方ラーメン、日本酒など12品目を販売しています。売り上げは上々で、収益を震災義援金に充てるとのことです。

かつての「敵地」からの支援に、JAあいづの担当者は「大変ありがたい話。萩の協力も得て風評被害に打ち勝ちたい」と話しているそうです。

出典：

震災以降、福島県民を応援してくださる声が多く聞こえてきます。

わたくしたち採用と教育の事務所にも、日々たくさんの応援メッセージを頂き、大変勇気付けられています。ありがとうございます！！

元気な福島、がんばっています。

日本中、世界中からのあたたかいご支援に心から感謝申し上げます。

ほっ。と ストーリー

人には、人それぞれの人生があり、100人いれば、100通りの歴史や物語があります。
ここでは、そんな数々の人物伝の中から、一人ピックアップしてご紹介します。

あなたはひとりではない

ある人が、神様と砂浜を歩く夢を見た。
後ろを振り向くと、2人分の足跡が残っていた。

しかし、人生を振り返ってあることに気づく。

自分の人生の中には、
ひとり分の足跡しかないところがあるのだ。

それは、その人が人生でもっともつらく
悲しいときだった。

その人は神様に尋ねた。
「どうして、あのときは
一緒に歩いてくれなかったのですか？」

神様は答えた。

「愛する我が子よ、
私はあなたを見捨てたりはしない。
そのひとり分の足跡は、
あなたを背負って歩いた私の足跡だよ」

この「神様の足跡」のように
人生を歩んだひとりの女性がいる。

彼女は夫と離婚し、実母が亡くなり、
収入もなく、
生まれたばかりの娘を抱えて
どん底の生活を送っていた。

それは自殺まで考えるつらい時期だった。

暗くせまいアパートに住み、
国からの生活保護を受けながら娘の世話をし、
就職するために、勉強を続ける日々。

そんな彼女の心を支えていたのは、
小説を書くことだった。

娘が眠っているわずかの間、
近所の小さなカフェで夢中になって原稿を書いていた。

彼女は書き上げた原稿をある出版社に送ったが、
返事はNO。
ほかの出版社にも送ったが、やはり返事はNO。

J・K・ローリング

(Joanne Rowling 1965-)

1994年、乳のみ子を抱え、生活保護を受けながら執筆した『ハリー・ポッターと賢者の石』が多くの文学賞を受賞。児童文学として高く評価され、多数の外国語に翻訳されて世界的ベストセラーとなる。以後2007年7月までにシリーズ7作を発表。年収約182億円は、「歴史上もっとも多くの報酬を得た作家」とされている。

今回の物語

「情熱思考」

中経出版,2010

是久 昌信 著 より抜粋



それでも、彼女はあきらめなかった。
そしてやっと、ひとつの出版社からOKをもらう。
彼女の本が、ついに出版されたのだ。

題名は『ハリー・ポッターと賢者の石』
そう、彼女の名は、
J・K・ローリング。

この本は出版業界の常識を打ちこわす、
驚異的なベストセラーに。
200を超える国と地域で、67の言語に翻訳され、
シリーズの総売上数、約4億5000万冊！

彼女の個人資産は約1000億円に。
エリザベス女王の個人資産を超えている。

どんなに苦しいときも、
あなたは決してひとりではない。
すべてから見捨てられることはない。

神様がきっと、あなたを背負ってくれる。



コラム

あなたにとっての神様は何だろう。

あなたがつらく悲しかった時、見捨てずに背負ってくれた神様は何だっただろう。

J・K・ローリングにとっての神様は、娘、夢中になって書いた原稿、そして自身のあきらめない気持ちだったのではないだろうか。

それらに支えられ背負われていたからこそ、彼女はまた自分の足で新しい足跡を刻んでいった。

人はどん底にいる時、周りが見えなくなる時がある。

しかし、そのどん底から這い上がった時、ふと周りを見渡すと支えていてくれた人・物があることに気付く。

あなたをずっと背負ってくれていた人たちだ。

いつか自分も誰かを背負って歩けるように一步一步進んでいこう。

目にした瞬間から笑いと驚きを
くれる3匹のねこたち。
どんな夢を見ているのでしょうか。

夢は体操(鉄棒)で
オリンピック出場すること。
目指すはもちろん金メダル
なんだにや〜…zzz。



■あなたのとっておき 「癒し」画像を YELL に 載せてみませんか!?

YELL 編集部では、皆さまの「とっておき
の癒し画像」を大募集しております☆

次号の YELL の紙面を飾り、みんなの
心を癒すのはあなたかも!

可愛いペットや素敵な風景、くすつと笑
える写真など、ココロが「癒え〜る」ものな
ら題材は何でも OK! たくさんのご投稿、
お待ちしております(^^)

【ご応募方法】

◎下記連絡先「採用と教育 YELL 編集
部」宛に郵送。

◎メール(データ)でのご応募も可能です。
件名に「YELL 編集部」宛とご記入くださ
い。

紙面には画像の他、お住まいの地域
(県・市町村名)、ペンネーム、写真の説明
(100字以内)を掲載させていただきます。
そちらも併せて明記して頂きますよう、ご
協力お願い申し上げます。

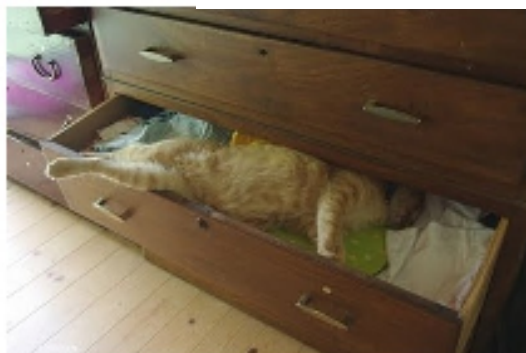
※ご応募の際にご記載頂く個人情報は、
「採用と教育」以外の第三者へ開示・提供
することは一切いたしません。

今後、ご記入いただいたご連絡先宛て
に「YELL」ならびに「採用と教育からのご
案内」を郵送させていただく場合がございます。
ご不要の場合、お手数ですがその
旨をお書き添えていただきますよう、よろしく
お願いいたします。



癒しの写真館

Vol.4 気ままなお昼寝



でっかい魚を追いかけて
今日もタオルと夢の海を
泳ぐにやー。

コピー機のぬくもりが
たまらにやいにや…。
みなさん、いい夢を…。
zzz…。

(出典:msn トピックス)



「YELL (癒え〜る)」について

いつもお仕事をがんばっている皆さまのもとへ、
小さな微笑みと、癒しのひとときを。

そんな想いでつくったのが「YELL (癒え〜る)」
です。

このニュースレターは、これまでにご縁をいただ
いた皆さまへ「採用と教育」広報部より随時お届け
しております。

お忙しい日々の合間に、いつでもお気軽にお手
にとっていただけたら嬉しいです。

皆さまの職場が、思いやり優しさ、そして笑顔で
みちあふれますように。

■お問い合わせ

採用と教育 広報部

福島市三河南町 1-20 コラッセふくしま6階

TEL 024-529-5153

E-mail info@saiyoutokyouiku.com

編集後記

O: 今回の YELL 書いてみてどうだった?

H: 読む側と書く側は全く違うなと思いました。

どうやったら相手に伝えられるだろうとか。

O: 「YELL」が皆さんの手元に届いたとき、読んで頂いて癒
されてるところを想像するとうれしくなるよね〜。

H: ですね。ニヤっとしてくれたらうれしいです。

O: 今年の夏も本当に暑いので、皆さん、夏バテや熱中症
には気をつけてくださいね!

県外・県内のみなさまからの応援を栄養に

一同、元気にがんばっています。ありがとうございます!!